

令和3年度事業報告

夙川さくら保育園

1. はじめに

職員一同、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、保育の運営と活動を続けエッセンシャルワーカーとして社会に評価を受けたことはとても誇らしい気持ちとなりました。しかし、令和2年の初めから始まったコロナ禍は、令和3年度においても収束しませんでした。そして、さらなるオミクロン株の出現により、保育現場では、子どもや職員を守る中で、保育の継続を柱とした子どもファーストの目線を崩さない保育内容や対応策に迫られました。この経験は、新型コロナウイルス感染症の流行に限定されたものではなく、近年の自然災害や気候変動にも対応できる組織作りや保育の在り方を考えることにつながりました。そこには、法人の各専門部会での会議内容を全職員に周知することで、皆で知恵を絞り、意見交換や対応策を練ったことも大きな要因となり、園の危機管理体制をその都度考え直すきっかけにもなりました。

また、5カ年計画3年目にあたる年となり、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を取る状況化の中で、地域の方へ空き保育室を開放する事業は、断念せざるを得ないものとなりましたが、発展性のあった内容では、医療的ケア児の保育受け入れについての研修会に参加し、学びを深め、実情を知る機会となりました。

このように変化のある時代だからこそ、子どもたちの保育を担う専門的立場から感染症対策を取りながら、子どもの最善の利益の追求を目指すため、法人の理念や保育方針に沿った保育を展開し、発展、充実させていくことの大切さを全職員で再確認した機会となりました。

法人の理念行動や各職員が目標管理シートで掲げた目標を達成するために、スモールステップを積み重ね、一人ひとり意識を持って取り組めた結果、職場環境の改善や質の向上にもつながったように感じます。また、人権に関する自己チェックから、他の職員を大事に思い、認め合う職員集団の意識の改革にも努めました。

幼保連携型認定こども園への移行は、西宮市の要件を満たさなかったため、見送りとなりました。

引き続き、不透明な情勢が続くと予想されますが、子ども主体の保育を常に考え、子どもの育ちを保護者の方と共有し合い、支えていくことを大切にしていきます。

2. 事業報告

1) 施設を利用される保護者と手を携え、保育園の独自性を活かした施設運営

を行います

(ア) 西宮市の待機児解消を受け、園全体として利用率115%、92名(定員80名)の利用を今年度も堅持していきます。

⇒4月は、育休延長のための入園辞退者、5月には、転園する園児がいました。その後、入園児が決まりませんでした。9月以降に、92名の在籍、利用率115%となりました。

<利用状況>

【定員 80名】

年齢/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均	前年度
0歳	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5.8	6
1・2歳	27	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	27.9	28
3歳	19	18	18	19	19	20	20	20	20	20	20	20	19.4	20
4・5歳	39	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38.0	37.8
合計	90	89	90	91	91	92	92	92	92	92	92	92	91.3	91.8
利用率%	112	111	112	113	113	115	115	115	115	115	115	115	113.8	114.7

(イ) 3歳児に「障害児保育」の加配保育士と生活支援保育士を配置し、きめ細かい援助をします。乳児クラスでは、安心できる保育士との信頼関係を築き、十分に養護の行き届いた環境作りを工夫します。幼児クラスは、集団的なあそびや、協同的な活動を工夫し、あそびが学びを育む力へとつなげていけるよう、一人ひとりの成長と集団としての取り組みの充実を図っていきます。

⇒子どもの発達を理解した上で一人ひとりを大切に保育を心がけていきました。

自然事象を大切に、四季を肌で感じられ豊かな発想力や想像力を伸ばした保育内容を設定しました。

意欲・心情・態度を育む、見て、聴いて、触って、感じて、考えることを基盤とし、遊びの展開や発展がそれぞれの学びとなり、そのことを仲間と共有し、気持ちが分かち合えるよう、子どもたちと一緒に感じ取って進めました。

人権に配慮した二重否定の言葉がけをせず、肯定的に捉えて、子どもの気持ちに寄り添う対話を大切にしました。

(ウ) 保育内容の充実に努め、子どもたちの発達を支援します。

保育の柱である「あそび」・「食育」・「身体づくり」・「感性を磨く」の取り組みについて、カリキュラムと照らし合わせ、実践し遊びを発展させていきます。

⇒期末毎に行い、年間では、カリキュラムと保育実践の照らし合わせと振り返りを行いました。年2回の保育総括では、改善点に加え、各クラスの良かった点を全

職員で出し合い、建設的な意見交換をして、保育士の自信に結びつけました。

年間を通して、異年齢クラス合同のリズム運動遊びに積極的に取り組んだことで、体幹が強くなり、大きなケガの減少につながりました。

- (エ) 子どもたちの日々の様子を保護者にタイムリーに伝えるために、保育室での写真掲載やホームページのブログを活用して、保育の見える化を意識し発信します。

⇒各クラスや玄関ホールに写真とコメント付きでドキュメンテーションを多数掲示しました。

ホームページのブログを利用し、毎月1回子どもやクラスの日々の様子や行事の様子などを随時写真付きでアップしたことで、入園を考えている地域の方や職員面接時の参考材料となり、共感してくださる方の多さを実感しました。

ピクチャーレールを増設したことで、子どもたちの作品を飾る機会を充実させ保護者や来園者に保育内容が伝わる場面が増えました。

- (オ) 家庭と連携しながら、食への興味関心や食生活の習慣を育んでいきます。

⇒管理栄養士が、各地の郷土料理を参考に子ども向けに献立を作成し、行事食もよい子ネットを通して保護者に配信したことで、食育情報の提供となりました。

5歳児クラスが3色食品群の分類の取り組みを行い、体と栄養の関係を学び、4歳児クラスは、体の中での食べ物の通り道を図に起こし、あそびの中から学びに発展させました。

年間を通して、感染症対策に結びつく手洗いを管理栄養士が子どもと保育士にお話仕立てで楽しく丁寧に指導を行いました。

- (カ) 保護者の相談や感染症対策など、きめ細やかに対応していきます。緊急の場合は、よい子ネットの一斉送信メールにて、早急に伝えます。

⇒定期的に個人懇談会を設け、育児相談や近況報告を交わしました。

緊急時の新型コロナウイルス感染症に伴うクラス閉鎖時には、速やかにより子ネットを使って保護者に連絡し、感染拡大防止に努めました。

- (キ) 土曜日の空き部屋を保護者交流の場として、開放します。

⇒まん延防止等重点措置がとられていた時期もあり、問い合わせはありませんでした。

- (ク) 年末保育の実施を安井保育園と共同で取り組みます。

⇒12月29日、夙川さくら保育園にて4名、安井保育園・夙川さくらんぼ保育園で各1名、計6名の保育にあたりました。

- (ケ) 地域のニーズに合わせ、健康・食事・育児相談等の子育て支援を実施します。

⇒園外の掲示板やホームページ、子育て新聞にて開催のお知らせをしました。

エレベーターで3階直通のルートを確保し、感染対策を取り実施しました。

2) 保育の質の向上のために

- (ア) 全職員で、保育園経営状況や事業計画・進捗状況等に関する研修や会議を行い、共通認識を持てるようにしていきます。
- ⇒年度初めに法人の理念や事業計画や方針を職員会議で確認し、認定こども園への移行については、3園合同で、理事長による説明会を行いました。
- (イ) クラスの枠を超えて、全職員で子ども一人ひとりを見ていく体制を継続していきます
- ⇒園児の危険行為を目にした時は、全職員が声をかけ事故防止に努めました。
- その後ヒヤリハットで取り上げ、検討し改善策を考える時間を設け、全職員に周知しました。
- 子どもの姿や行動で気になった場合や加配対象児など、クラス担任だけで考えるのではなく、他の職員と環境や人的配置などの見直しを話し合いました。
- (ウ) 職員の心身の健康保持のため、昨年の行事内容のデータ活用や記録用紙の検討など、業務の簡素化や事務時間の軽減が行えるようにします。
- ⇒パソコンデータを整理したことで活用しやすくし書類作成の軽減につなげました。
- 記録用紙は、記入しやすさ、見やすさを追求したものを職員自ら試行錯誤し、作りあげ活用しました。
- (エ) 現在の保育内容や子どもたちの育ちを考慮した上で、計画の立案、実践、振り返り、課題、実践の循環を確立させていきます。
- ⇒量から質へポイントを押さえることで、今後の関わりや取り組み方法を担任間で方向性を共有できたことで、新たな課題を見出す力や挑戦する力が養われつつあります。
- 個人カリキュラム作成に伴い丁寧な話し合いを重ねたことは、計画から振り返りの一連の流れを循環させるために大切な意味があることを再認識しました。
- 指導計画を基に、それぞれの発達にふさわしい環境を十分に整え、日々の保育を行いました。
- (オ) 外部講師による保育指導を中心に園内研修を継続的に実施し、全職員が共通のテーマの中で、ともに学び育ちあえる仕組みを作っていきます。
- ⇒こども未来センターのアウトリーチを活用し、年間で8名を対象に指導を受けました。保育士の関わり方の手立てを実践したことで、子どもたちにも成長が見られ、保護者の方から子どもの変化が感じられたと報告を受けました。自立に向けた関わり方を保護者と保育園とが共有できたことは、大きな成果につながりました。保育指導では、具体的に場面ごとの振り返りがなされたことで、発達と結びついた指導となったことで、即、取り入れようと前向きな姿勢がみられました。
- また、意欲・心情・態度を育む保育の実現についても、より学びを深めようと、保育関連の本を手にする職員の姿があり、同じ本を読んだ職員同士、保育交流も盛んに行われていました。
- 救急救命士による AED の取り扱いと窒息時の対応を赤ちゃん人形を使って学び

ました。

(カ) 一人ひとりが自ら研修計画を立て、社会における保育の動向を知り広い視野が持てるよう、外部研修やキャリアアップ研修に積極的に参加します。その学びを職員会議で発表する場を設け、全職員の学びにつなげていきます。また、3園での担当者交流や交換研修でも、保育士同士の質や専門性を高め合います。

⇒オンラインによる研修会の増加で、参加する職員同士、同時期に研修内容を共有したこともあり、すぐさま、保育に活かすことができました。

職員会議で、各職員研修内容のポイントを発表したことで、不参加だった職員が熱心に耳を傾け、伝達研修として学び合う場となりました。

(キ) 各職員が、自己評価とヒアリングや目標管理シートを用いて振り返った後に、面談を行い、スキルアップや人材育成につなげていきます。

⇒各職員の思いや悩みを聴いた後に、振り返りを行う中で、モチベーションをあげるような面談を意識して行いました。

(ク) 人権委員会を中心に、人権を意識し尊重する中で、全ての人におもいやりや、いたわりを持って関わられるよう、お互いが認め合っていける人間関係を確立していきます。

⇒アンケートや会議で、関わり方を振り返る機会を増やしたことで、職員同士の声の掛け合いや気遣う言葉が多くなってきました。

「ありがとうございます」の言葉が飛び交うようになり、あたたかな人間関係の土台を築き始めています。

(ケ) 虐待やパワーハラスメント防止に向け、マニュアルに基づく研修やアンケートを年2回実施します。不適切な関わりなどを見かけた場合は、一緒に考えていく体制を作り予防に努めます。

⇒9月と2月にアンケートを実施した結果を会議で伝え、全職員で改善点を確認しました。働きやすい環境の条件を探り、意識して取り組んでいるところです。不適切な関わりを見かけた場合は、子どもの立場に置き換えて考えることで、職員の意識に変化が見られました。

(コ) ヒヤリハットの事例を題材に、職員会議で解決防止策の意見交換をし、対応力や応用力を身につけます。

⇒毎月、欠かさずヒヤリハットについて協議をしました。同じ事例が繰り返し起こらないように、今後も対応力の強化をしていきます。

(サ) 医療的ケアを必要とする子どもへの対応や障がい児保育の受け入れに向けて、西宮すなご医療福祉センターと連携し、法人内の保育園としての役割と保育のあり方、児童の受け入れ方法等の研修をし、学んでいきます。

⇒西宮すなご医療福祉センター主催の「医療的ケア児支援」の研修に参加しました。安全の確保と医療的ケアを行いながら、保育を実施する場合の具体的内容について学びを深めました。

(シ) 認定こども園への移行に向けて研修を行い、理解を深めます。幼稚園教諭の免許取得と更新をすすめていきます。

⇒研修に参加後、幼稚園免許更新者は5名、免許取得者は令和4年4月以降に2名が受講予定です。

役職者が、兵庫県主催の説明会に参加し、園長研修も年間を通して受講いたしました。

3) 地域子育て支援及び地域との交流

(ア) 保護者が心にゆとりを持って子育てができるように、地域子育て支援担当者が中心となり広報活動をしていきます。保育園を身近に感じていただけるよう、子育て新聞の配布、屋外掲示板やホームページ上で、子育て講座への参加や育児相談を呼びかけます。そして、近隣の方々へ地域合同避難訓練や緊急時の協力体制が取れるように、日頃からの関係作りを大切にします。

⇒一時預かりご利用の保護者の方と、園見学を希望されているご家庭に呼び掛けたことで、参加人数が増えました。

地域合同避難訓練は、地域の方には避難誘導のご協力を得て、安井保育園と合同で実施しました。

(イ) 保育園の栄養士・保育士が専門性を生かし、積極的に育児講座に関わり、保護者参加型の取り組みを企画し地域の子育てに貢献します。

⇒管理栄養士は離乳食講座、保育士は短期体験保育など、日頃行っている業務から専門性を引き出し地域の方と関わりを持ちました。

(ウ) 青少年愛護協議会をとおして他団体と情報を共有することで、今後も地域の中の保育園の位置づけや子育て支援の機能が果たせるよう関係を築いていきます。

⇒定例会に参加し、各学校、園のコロナ禍での様子の情報交換をしました。今後も、地域に根付く保育園を目指しています。

(エ) 感染症の状況を考慮しながら、子どもたちとのふれあいや保育園内外の環境整備など、学生や地域からボランティアを募ります。子どもたちの新たなことを知ろうとする力や感謝の気持ちを育み、挑戦意欲や人のために役に立つ気持ち等、保育に反映させていきます。

⇒保護者から、園庭に花壇を作るボランティアの希望がありました。5歳児が中心となり、花の世話を自ら行う姿がありました。花の名前調べや、観察する力、感性も芽生えつつあります。そして、花壇と作ってくれた感謝の気持ちが自然をわいてきています。

(オ) 保育の専門理論や知識・技術の習得に励む実習生や学校授業での職場体験については、感染拡大防止策を取りながら、積極的な受け入れをします。

⇒学校側にも感染拡大対策にご協力いただき、積極的に受け入れを行いました。

(カ) 法人の高齢者施設（にしのみや苑）や児童発達支援センター（北山学園）との交流を計画的に取り組み、人とのふれあいをとおして、おもいやりや自己肯定感を育む取り組みを展開していきます。

⇒にしのみや苑とは、コロナ禍であるため対面は避け、ビデオレターや制作物の交換をし、存在を意識しました。

北山学園とは、コロナ禍であるため、実施はしませんでした。

(キ) 近隣小学校との交流で一貫したつながりを持つことで、円滑な就学に結び付けていきます。

⇒コロナ禍で、小学校見学は、中止となりましたが、5歳児担任が各研修に参加し、就学に向けての情報の交換をしました。

(ク) 地域貢献では、園周辺や近隣の公園の清掃活動を継続的に実施します。

⇒年間を通して、行事前後、週末など、清掃を行いました。

〈 子育て支援事業 〉

内容/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
地域交流	1		1					1					3回
育児相談				3		1	1	4	2				11件
体験保育													実施なし
短期体験							7	7	4・1				19組 38名
子育て教室				6					4	11			21組 42名
育児講座							6	4					10組 20名
園庭開放	36	8		36	9		81	22	27		12		219名
子育て新聞	200		200		200		200		200		200		1200部
よい子ネット配信	10	9	3	3	9	7	11	6	6	16	26	17	123回

地域交流・・・4・6月 にしのみや苑

11月 地域合同避難訓練

短期体験・・・10・12月 1歳児

11・12月 0歳児

子育て教室・・・7月七夕

12月 クリスマス

1月節分

育児講座・・・10月親子あそび

11月 離乳食講座

4) 安心・安全・快適な環境づくり

(ア) 新型コロナウイルスを含む感染症対策をとり、子どもたちの生活が快適に送れるように安全な保育の継続に努め、健康に成長・発達していけるように常に職員で共有し、環境を整えていきます。

⇒基本的感染症対策を取りながら、安全で安心な園生活を常に視野に入れ、保育を組み立てました。乳幼児リーダー会議で共有し職員に周知して環境整備に努めま

した。

3月、4・5歳児の合同保育時間に限り、マスクの着用を行いました。

クラス閉鎖時は、職員が抗原検査を実施し、早期発見に努めました。

- (イ) 毎月、避難訓練を計画し、消火訓練・不審者対策・地震津波対応・台風等、あらゆる場面を想定した実効的な訓練を実施し、子どもたちに避難方法を伝えるとともに職員の行動や対応など、具体的な動きを確認していきます。

また、災害時、保育園の利用者及び地域の方が一時的に避難できる施設として機能していけるように安井保育園と連携していきます。

⇒避難訓練は、年間計画に沿い、水消火器や通報訓練も実施し、その都度、振り返りも行いました。

備蓄品は、緊急時に備え、取り出しやすい保管場所に移動しました。

- (ウ) 毎月、全職員が順番に安全点検を行い、修理が必要な箇所については、早急に対応し、安全で快適な環境を常に心がけます。

⇒異変に気づいた時は、早急に修理の手配をし、複数の職員が目視で安全な環境を徹底しました。

- (エ) 定期的に各種マニュアル（乳幼児突然死症候群（SIDS）・アレルギー除去対応・誤食・感染症対策など）の研修を行い、周知・徹底をしていきます。

⇒研修を実施する中で、学びを深め、マニュアルに沿った対応を基本とし、全職員が理解し、行動に移せるように繰り返し確認をしました。

- (オ) 「ヒヤリハット」の解決策を職員全体で共有し、再発防止の徹底に努めます。

⇒ヒヤリハットを活用して、会議で事例を分析し、全職員で再発防止に努めました。

- (カ) 園外保育時に安全を期すための配慮事項の徹底をします。

⇒散歩時の安全な引率方法を徹底し、毎月の安全チェックの中でもクラスごとに振り返りを行いました。基本の散歩ルートを決め、緊急時のお迎え対応に備えました。外出先での不審者対応のマニュアルの見直しも行いました。

- (キ) 安井保育園の栄養士と定期的に会議を設け、安心・安全な食事の提供とアレルギー食の細かな対応や、季節感のある献立、食育への取り組みの共有化を図ります。さらにハサップを導入し、食の安全について気を引き締めていきます。

⇒安井保育園の栄養士と積極的に情報を交換しました。

職員対象に管理栄養士が講師となり、ハサップの研修と子どもたち向けに手洗い指導を定期的に行い、食の安全に努めました。

通常の給食、行事食など、園内のサンプル提示と合わせて、よい子ネットでも発信したことで、地域の方にも知っていただく機会となりました。

- (ク) 設備・環境整備

・オープンスペースで暖房が効きにくいいため、ランチルームの床暖房設置工事をします。

⇒12月に実施しました。食事以外でも密を防ぎ、あそび場所として、幅広く活用し

ました。

- ・外壁の美観保持のため、一部塗装をします。
⇒1月に実施しました。美観が保たれました。
- ・保護者に保育内容の伝達手段方法として、有効的なピクチャーレールの設置をします。
⇒7月に取り付け後は、子どもたちの作品を飾る機会が増え、保育内容を保護者に伝えやすくなりました。
- ・開園から5年経過と施設設備の保持のため、業者による厨房の清掃と園舎内のワックスがけをします。
⇒10月に園舎内の床洗浄と一部ワックスがけを実施し、過ごしやすい保育室の環境と床の保護となりました。
- ・紙おむつの処分を園で行います。
⇒衛生管理の目的もあり、4月から園での処分を実施しています。
- ・公用車を安井保育園と共同で新規リースします。
⇒新車の納車が契約から3カ月かかり、車検満了日に間に合わないため、新規契約は、令和4年度に行います。

5) 一時預かり事業

(ア) 一時預かり事業は保育士を2名配置し、年間利用者数1,500名以上を目標とします。

⇒クラス閉鎖で受け入れを縮小した時期とまん延防止重点措置期間中のキャンセルが相次ぎ、また、幼稚園に途中入園されるご家庭の増加もあり、目標人数は、達成されませんでした。

地域にある幼稚園の預かり保育の実施で、3～5歳児の受け入れが減少となりました。

(イ) 利用される保護者の要望には柔軟に対応し、安心して預けていただける環境を用意することで、リピーターの増加に努めます。

⇒新規登録者の問い合わせは増加傾向にあり、各家庭のニーズにあった時間帯を幅広く受け入れたことで、定期利用者が増えています。

(ウ) 気軽に保護者が子育ての悩みや相談を話していただけるように、心のケアの役割を果たし、必要時は他の関係機関と連携して早急に対応していきます。

⇒潜在的に子育て不安を抱えている保護者を把握し、利用時に気持ちに寄り添いました。また、西宮市の年齢別の健康診断でも相談体制があるため働きかけていきました。

(エ) 異年齢保育の質の向上のため、担当者の研修を行います。同時に、子どもの発達に合った玩具を整えます。

⇒乳児保育の研修内容や保育指導での学びを取り入れ、子ども理解や関わり方につなげていきました。

子ども一人ひとりの発達について理解した上で、特性に応じた玩具を用意し安心して遊べる環境も用意しました。

<一時預かり保育 利用状況>

年齢/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	昨年度 合計
0歳児	1	0	1	1	0	5	7	19	17	30	30	57	168	159
1歳児	41	37	29	31	18	42	39	45	41	25	8	20	376	481
2歳児	57	43	68	61	37	57	53	51	51	46	9	45	578	297
3～5歳児	22	10	11	15	43	0	4	4	16	4	0	21	150	285
合計	121	90	109	108	98	104	103	119	125	105	47	143	1272	1567